



受験サプリ

オンライン予備校「受験サプリ」導入を 特色ある学校づくりの新機軸に

— 埼玉・市立大宮西高校 —

取材・文／丸山佳子



左から、
IT部主任
筒井賢司先生
進路指導部主事
近藤久義先生
IT部専任教諭
向後正和先生

School Data

創立1962年／普通科
生徒数965人(男379、女586／2013年4月現在)
進路状況(2012年度)大学・短大進学71.6%・
専各進学20.0%・就職1.2%(うち公務員0.6%)・その他7.2%
埼玉県さいたま市大宮区三橋4-96
TEL 048-624-4000
URL <http://www.city-saitama.ed.jp/ohmiyanishi-h/>

さいたま市教育委員会 「市立高校『特色ある学校づくり』 計画」と大宮西高校の取り組み

2009年：日本一の教育都市を目指し、「さいたま市教育総合ビジョン」策定。

大宮西高校、毎週土曜日、予備校講師による英語・数学進学セミナー開始(有料)。埼玉大学の高大連携講座による大学の単位取得開始。

2010年：さいたま市「市立高校『特色ある学校づくり』計画」発表。

2011年：大宮西高校、特色ある学校づくりに基づき、「グローバル先進校」への取り組みスタート。さいたま市立高校4校のネットワーク化を推進。市立高校のホストコンピュータを管理。IT関連授業強化。20年以上前から行っている外国人講師による少人数英語授業を更に強化。

2012年：日本国際協力センター主催の「キスナ強化プロジェクト」による米国ペンシルベニア州の高校生徒受け入れなど、国際交流事業を強化。2001年より開始した夏季オーストラリア研修実施。韓国との相互短期派遣研修。

2013年：夏休みセンター試験対策集中講座開始。女子栄養大学との姉妹校提携。予備校講師によるオンライン授業「受験サプリ」導入。

昨年秋新設した自習室で 『受験サプリ』を活用



2つのグローバル・スタディールーム。手前の部屋はミーティングや面接練習、プレゼン練習、少人数ゼミに使用。奥の部屋は22席あり、パソコン10台が設置されている。



「静かな自習スペースができ、生徒たちも積極的に利用しています。『受験サプリ』は自宅で受講している生徒も多いのですが、校内での受講ができるように今後はパソコンを増やしていく予定です」と、向後先生。

さいたま市は、授業の質向上と進路指導の充実を図り、生徒と保護者の満足度を高めていくために、2011年度より「市立高校『特色ある学校づくり』計画」を推進している。同市の市立高校は4校。その中で、生徒の95.2%が「学校の教育に楽しい」、保護者の93.1%が「学校の教育にとても満足」と回答し(12年3月の満足度調査)、ともに高い支持を得ているのが大宮西高校である。同校が掲げる特色は、「グローバル化先進校」。外国語教育と国際交流の充実に加え、これからのグローバル社会で必要なICT(情報通信技術)活用能力の育成に力を入れている。

IT部と進路指導部が連携し、 無料のオンライン予備校を導入

「特色ある学校づくりは、公立高校にとっても大きな課題です。当校は早くから校内のネットワーク化を進め、IT関連に強いという特色がありました。また、20年以上前から外国人講師による英語の少人数授業を、4年前からは土曜日に予備校講

師を招き、英語と数学の有料進学セミナーも行っています。常に生徒のためを考えて新たな挑戦をしてきたことが、生徒と保護者の支持の高さにつながっているのだと思います」と、IT部主任の筒井賢司先生。そうした取り組みの成果は進学率にも反映。進路指導部主事の近藤久義先生は、「以前は指定校推薦が多かったのですが、ここ数年、センターを含む一般入試の受験者が大幅に増えました」と話す。

そこで昨年、進路指導をより充実させるためにIT部と進路指導部が連携してさまざまな学習に対応できる「グローバルスタディールーム」を開設。土曜進学セミナーを受けられない生徒のためにも、オンライン予備校導入を検討した。教材選択を担当した情報の向後正和先生は「5社の教材を検討した中でコンテンツが多かったこと。どの講座も黒板を使用しているのでプロセッサがわかりやすく、英語ならば、単語や文法をイメージで理解させる工夫があるなど、講師の技術が際立っていたこと。そして、学校で一括導入する費用が安価なことが『受験サプリ』を選んだ理由です。受験を

控えた息子が『一番わかりやすい』と評価したこともポイントでした」と言う。

『受験サプリ』の無料受講を 公立高校の新たな魅力に

同校で2、3年生に『受験サプリ』の受講希望者を募ったところ、半数以上の約350人が登録。有料の土曜セミナーの5倍以上にのぼった。

「登録した生徒たちの意欲も向上しているので、ぜひ、来年度も生徒が継続して受講できるように予算を取りたい。埼玉県は伝統的な教育県です。予備校に頼らず教師が授業をすべきという考えが今もありません。しかし、実際には通塾している生徒も多く、個別の大学入試対策を教師が徹底指導するのは難しい。公立に通う家庭の負担も考慮しつつ、今、生徒に何をさせてあげられるか。それを考えることが、学校をより良くしていくこと。企画力のある学校でありたいですね」と筒井先生。

『受験サプリ』導入で、さらなるレベルアップをと意欲的だ。